

No

45

自分の経験したことやイメージしたことを
絵に描いたり、粘土などさまざまな素材で表現したりする。

…人とかかわり…

稲刈りの絵を描こう

みんなで稲刈り体験した時のことを
思い出して、画用紙にのびのびと描く。

10月

☆ 視点に関わる背景（4月からの状況） ☆

- 子ども達は、栽培や収穫、遠足や運動会など、直接体験したことや想像したことについて、様々な画材を用いて表現することを経験している。
 - ◇ 栽培活動を通して、葉の形状、色合い、花の咲く様子を観察したり、周辺にいる虫などを手にとったりして会話を広げながら、五感を通して心が揺さぶられたことを表現する。
 - ◇ 運動会などで、繰り返し経験・挑戦してきたことの達成感などを思いっきり表現する。
 - ◇ 絵本や紙芝居などを読んで印象に残った場面や、描きたいと思った場面、物語のその後を想像した場面など一人ひとりが描きたい、表現したいと思った場面ののびのびと表現する。
- サインペン、パステル、鉛筆、用紙などを普段から手に取りやすいところに置いている。幼児は、何かを描きたいと思った時に、自由に画材や用具を用いて描いている。

☆ 接続期の状況（中心となる活動の時間） ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<p>春に体験した田植えのことや稲刈り当日の朝の様子などをみんなで順をおって振り返ったり、稲の生長や収穫、田んぼに関することがかかれてある絵本などに触れたりしながら、田んぼの様子を思い出すよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 稲刈りで使用した鎌や刈りとった稲の束などを見ながら、稲刈りの時の様子を発表し始める。 <ul style="list-style-type: none"> A：鎌を持っているほうの手に力が入った！ B：私も！足に鎌がぶつからないように気をつけたよ！長靴を切らないようにしたの！！ C：えーっ！僕は、足のほうに一番力が入ったよ！だって、稲を刈る時、転びそうだったもの！ D：稲穂の方は葉っぱがいっぱい広がっていたし、ちくちくして持ちにくかったよね。 E：田んぼの中に入ったら、稲がいっぱいで向こう側が見えなかったけど、空はいっぱい見えたよ。 F：稲の方が、僕よりも背が高かった。 G：田んぼに、カマキリとか蛙がいたよ！ <ul style="list-style-type: none"> ： 他の子も身振り ： り手振りを交え ： ながら話す。 四つ切の画用紙に、表現したいことを自分で決めて描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が主体的に自分の体験を振り返り、自分で発言できるよう、「この前、みんなでどこに行ったかな？」「そこで、何をしてきたの？」「誰がいたかな？」など、引き出すような問いかけをする。 子どもが保育者の意見に自分を合わせようとしてしまうと、幼児の自由な想像を妨げるので、「田んぼには、たくさんの稲がありましたね。」など、結論づけて話しかけるのは、避けるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> 幼児一人ひとりが、会話を弾ませ稲刈りの日の話を具体的に話したり、表情が生き生きとしてきたりしてイメージが広がったところで描くことを促す。 描きたい場面が見つけれないでいる子には、個別にゆったりとした気持ちで声をかけ、表現したい場面を自分で決められるようにかかわる。 <p>完成した絵の発表をしたり、掲示したりし、様々な表現方法に関心が持てるような環境作りをする。</p>

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

幼児は、絵を描くこと（体験画・想像画等）に没頭しながら自分なりの世界観を広げ、言葉では伝えられなかった部分を表現することもある。幼児期の絵画は、心を揺さぶられる体験を表現・表出する手段の一つである。しかし一方で、描くことに苦手意識を持つ子ども現れてくる頃でもある。保育者は、幼児一人ひとりの表現のよさを認め、伝えていきながら、「また描きたい」と思えるようなかかわり方をすることが大切である。

接続期になると、身の回りの様々な表示や標識、文字、数字、記号（お店の看板やメニュー表、地図や迷路、絵本や紙芝居作り他）などへの関心も高まるようになるので、「かきたい」と思ったことを存分に体験できるように用具の配置にも留意する。